

令和7年度 第1回末野原地域会議 会議録

- 日 時 令和7年4月17日（木） 午後7時から8時50分
■場 所 上郷交流館 2階 ふれあいホール
■出席者 委員 : 15名（欠席1名）
事務局（上郷支所）：下川支所長、伊藤担当長、永田主査

■次 第

- 「豊田市民の誓い」唱和
- 1 会長あいさつ
 - 2 新委員の紹介
 - 3 令和6年度第12回地域会議の会議録について
 - 4 上郷地域バス運営協議会委員の選任について
 - 5 協議事項 課題解決策の整理について
 - 6 その他
 - （1）地域会議だより No.45 の発行について
 - （2）わくわく事業の審査結果について
 - （3）費用弁償について
 - （4）上郷地域バスについて
 - （5）次回の地域会議について

■議事（要約）

- 1 会長あいさつ 省略
- 2 新委員の紹介 省略
- 3 令和6年度第12回地域会議の会議録について

・令和6年度第12回地域会議の会議録（案）を配付し、4月22日（火）までに内容を確認の上、修正等の意見がある場合は事務局へ連絡するよう依頼した。

- 4 上郷地域バス運営協議会委員の選任について

・昨年度選任された深津錦治委員、市川政秀委員が今年度も継続することで承認された。

- 5 協議事項 課題解決策の整理について

・昨年度の協議結果を振り返り、地域として「目指す姿」やそれに対する「必要な取組等」を改めて共有した。
・目指す姿や必要な取組の実現に向けて、協議結果に説得力を持たせるため、以

下の２点について、２つのグループに分かれて協議した。

①地域会議の協議結果を実行しないと、誰が・どう困るのか（問題の重要性・深刻度）

②実現したい地域の状況の具体化（目標の明確化・共有）

・各グループの協議結果は以下のとおりで、各グループともに協議時間が足りず、上記①のみの協議となった。

<グループ①>

・HUGを実践したメンバーが感じた重要性や深刻度について、受講してほしい方にどのように伝えるか、すぐにいい手立てが思いつかなかった。

<グループ②>

・令和７年２月に体験したHUGの中での気付きや困った点を、次回会議までに各自でまとめ、それをもとに、上記①の協議の続きを行うこととした。

（委員）避難所運営マニュアルを作成するという方向で話し合っている、という認識でよいのか。

（事務局）市が用意している汎用マニュアルをアレンジした地区毎のマニュアルは、すでに作成している地域もあるため、全く手つかずとなっている訓練に関して話し合っている。ただ、最終的には、各地区のマニュアルの整備についても訓練と併せて依頼していくことになると思う。

（委員）避難所については、避難してきた人達の中で運営組織を作るしかない。そのために、市の汎用マニュアルを補填するようなものを作成するなど、避難してきた人達が自主的に避難所を運営できるようになっていればよいのではないのか。様々な地域から避難してきた人と地域がどう関係し、地域に何を求めるのか。

（事務局）避難所の運営は、避難者である地域住民で行わなければならないが、現状避難所の運営に関して地域で議論がされていないため、発災後、実際に避難所を運営できないという状況を避けるために、地域としてどうしたらよいのかを検討してきた。

（委員）今回話し合ったマニュアルを誰がどう管理、更新していくのかも論点になる。作ったとしても使われなくなってしまう意味をなさないものになる。

（事務局）地域会議がマニュアルを作成したり、訓練を主催するわけではない。だからこそ「誰に」「何を」「どういう機会伝えるのか」を具体的に整理する必要があると考えている。

（委員）マニュアルを作成することに異論はない。加えて、避難所のリーダー候補者、運営候補者を一人でも多く増やす取組が重要だと感じている。避難所運営のイメージを分かっている人が増えれば、発災時にその中の誰かが避難所運営の中心を担っていける人材になると思う。

（委員）マニュアルだけあれば避難所運営できるというものではないと HUG を通じて実感した。

（委員）訓練も行って、マニュアルをブラッシュアップしていくことが必要だと思う。

6 その他

事務局から、次の事項について連絡した。

- ・ 地域会議だより No.45 の発行について
4月22日（火）までに内容を確認の上、修正等の意見がある場合は事務局へ連絡するよう依頼した。
- ・ わくわく事業の審査結果について
- ・ 費用弁償について
- ・ 上郷地域バスについて
- ・ 次回の地域会議について
とき 5月15日（木） 19:00～21:00
ところ ふれあいホール